



安心とつるおの「下町」川の手をめぐって

防災 まちづくり 版

発行「一言問を防災のまちにする会」

平成7年12月1日

高田製薬 跡地 検討中⑨

高田製薬跡地の「仮称」一寺言問防火「会館」の建設工事は、予定通り順調に進んでいます。製薬工場の基礎が思っていたよりも頑丈で大きく、かなり苦労しましたが、いまはそれも撤去され、徐々に建物がたちあがってきています。

担当理事会ではこの間に、広場の舗装

材料や色など、具体的な整備内容について検討してきました。当初から「リサイクルに貢献するような材料を使いたい」という意見があったことから、広場の舗装には空き瓶を小さく砕いて磨いた粒と小石を混ぜた材料が用いられることになりました。色や粒の大きさについては「建物とのバランスが大切だ」ということで、具体的には建物の設計者である西島さんに一任することになりました。また、区長自らのアイディアにより、建物の入口付近に、路地尊の本体（天水桶を型とった収納庫付き掲示板）を設置する検討も行われています。



△コンクリートの型枠が立ちあがる (10月20日撮影)

「仮称」一寺言問防火会館

これから何と呼ぶ？

「仮称」一寺言問防火会館」と呼んできた高田製薬跡地の建物は、まだ正式な名称が決まっていません。区の施設の名称にはきまりがあり、集会所として建てられる高田製薬跡地の建物の名称は「〇〇集会所」としなければならぬそうです。担当理事会では、建物には『一言集会所』、広場には『一寺言問防火広場』という意見がだされています。なお、建物や広場の管理・運営方法は検討中です。

一寺言問

空釜を缶ついで

ごはんを炊きました



さみと「インセット」、つまようじを使ってつくりまします。雨水でごはんを炊いた班もありました。火力の調節が難しそうです。炊きあがったごはんは、みんなで試食。味は◎です。

9月21日の午後、PTA主催の六学年学年行事の時間、一寺小学校の体育館からおいしそうな(?)炊き込みごはんにおいが...

そのかおりのもとは、PTAのお母さんたちが中心になって、空き缶の卓上こ



炊きあがったごはん



一言会の中心となっている理事会では、今、『今後の一言会』について検討しています。そんな理事会の様子をご紹介します。

昭和60年に、はじまった「一言問地区の「地元主導の防災まちづくり」。昭和61年には町会と「いわい会」からなる「一言会」が結成され、路地尊をつくったり、有季園のように区有地の管理を任せられたり、三とも通りなどの道路整備の計画に加わったりしてきました。そんな活動をしてきた一言会を資金面でフォローしていたのが「東京都防災生活圏促進事業」です。その事業も今年度で終わります。会自らの財源を持たなかった一言会は、活動を続けていくために新たに財源を確保しなければならぬという問題にぶつかりました。また、事業が終わるとなると、これまで一緒に会の運営を行ってきた区の地域整備課——運営に携わるほかに、理事会に参加して理事からの質問に区として答えたり、また区の他の係へ一言会でまとめられた意見を伝えたり...様々な役割を果たしてきた

——「これまでどおりの応援も難しくなりま

す。このような『事業終了』をひかえて、理事会では話し合いが続けられています。

- 一言会には今まで何度か立ち立しなげればならない時期があったけれど、先延ばしにしてきた。でももう延ばせないと、集めた資金で一言会を運営するとなると、周囲のみる目も厳しくなるだろう。
- 資金を集めることも必要だけど、新しい仲間も必要じゃないかな。
- 一言会のしくみがまだよくわからない...。まちづくりをしたい人たちのための「いわい会」のことか。

私がまちづくりスタッフです

3035
駒島-1
青木隆雄さん



忙しく働く現代人の足、自動車を棄っ、黒になって整備する青木さん。細身だが鍛えあげた体につなぎがよく似合う。

昭和9年埼玉県農家に生れる。跡継ぎがいたので、学校を卒業するとすぐ群馬の上信電鉄の下請会社に就職する。住込みで働き整備士の免許をとる。木炭自動車も走り、専門の自動車大工もいた。これからは新しい時代、東京で新しい技術を勉強しなければと縁故のあった茨城へ出てくる。結婚して墨田区民になり、40年現在地で工場を始める。

「十年以上も前に、三平という夫婦雑屋が売りに出た。向島ランプの脇の街へ下りる坂の途中にあり、見通しが悪かった。お願いしたけれど高くて買えなかった。その後、まちづくりのモデル事業に指定されたんだ。身近な問題だが、公園にゴミを捨てる人が多い。夏は水が大切になるけれど、公園に溜めてある防災用の水を入替える時、植木に散水してもらおうと水の有効利用になるんじゃないかな。」

土いじりが好き。植木の手入れのついでに、向三軒両隣まで掃除をする。犬のにおいを消すため水を散く。青木さんの家の前はいつもきれいで気持ちいい。

10月1日に、町田市のみなさん団体『町田いもづる株式会社』（友井光代表）の皆さんが一寺言問地区に見学に来られました。当日は天気にも恵まらっしゃいました。当日は天気にも恵まれ、路地尊2号基から向島有季園、会古路地へと、まちづくりウォッチングしました。

町田市のみなさん 路地尊を見学に来

今回は、雨水利用を主眼においた視察でしたが、路地尊を「私たちの地区にもぜひつくりたい」といった声が聞かれ、なかなかの評判だったようです。友井代表からお手紙をいただいたので、紹介したいと思います。

『阪神淡路大震災以来、雨水を含む「水」の大切さが強く言われていますが、それよりはるか以前より自分たちの住む町で、生活の「水」を大事にしてこられたことはすばらしいことであり、また、本当に大切なことだと納得させられました』



△ 町田市のみなさん
会古路地の前で

阪神淡路大震災 —被災地に向島に 「市民語り部キャラバン隊」が やってくる。

阪神淡路大震災については、テレビや新聞で話題にされる機会が少なくなりましたが、被災地ではまだ復興の途もたないところもあり、不便な生活を強いられている人々も少なくありません。

そんな被災地から「テレビや新聞では報道されない被災者の体験を、生の声で届けたい」と『市民語り部キャラバン隊』が向島にやってきます。キャラバン隊のメンバーは実際に被災した主婦や消防団員、学者など約30名。大震災1周年を目前に控えた1月13日に、曳舟文化センターと生涯学習センターで生の被災体験を聴かせてくれるそうです。

詳細は検討中だそうですので、今後のまちの情報に注意して、参加してみたいかがでしょうか。



△ みなさんプロジェクト
アトリエには「みなさん」の
お話を聞きます。

「災害のときには雨水も使つかもしいな」と聞いて、6年2組の菊地直哉くんは海外旅行にもっていった塩素を持ってきました。

「みんなで雨水をろ過して水はきれいになったけど、念には念をいれてね。塩素でもっときれいにしました」



△ 「ちゃん

- これまでの一言会は「ものづくり」が中心だったけれど、これからはそうじゃない。
- 路地尊の水槽の鍵はだれが持っているの？ 阪神大震災があつて水に対する考え方が変わったから、路地尊の水の管理についても考えたいよ。
- これからも一言会の活動の中で瓦版の発行を続けていきたい。地域の情報が自分のところに入ってくることは心強いし、これからの活動の中で重要になってくるのが瓦版の発行じゃないかな。

- 新しく一言会の理事になった人もみんな意見を出してほしいなア。すでに一言会でやったことじゃないかななんて思わずに、新しい人がやってみたいと思うこと、今の一言会にその必要があるということなんだから。
- いろいろやってきたよなア。地震が起こったとき病院はどうなるのかとか、電話はどうなるのかを聞きにいたり、井戸の水質調査もやったよなア。
- 一言会ができたときにつくった一寺言問地区の「防災まちづくり計画」を見直してもいいよな。(11/9 第73回理事会)

いちでらこととい 一寺言問/防災まちづくり瓦版

第38号 平成7年12月1日発行

編集/一寺言問を防災のまちにする会・編集局
高原純子・若木菊枝・植竹モト
阿部洋一・明間 藤・中村淑子

編集協力/マヌ都市建築研究所

発行/一寺言問を防災のまちにする会・事務局
墨田区まちづくり事業推進部地域整備課内
〒130 墨田区吾妻橋1-23-20 Tel.(5608) 6261

